



# THE GAMBANG OF THE WALKING WARRIORS

## GAMELAN BELEGANJUR AND THE MUSIC OF THE NGABEN FUNERARY RITUAL IN BALI

歩行戦闘員のガムラン  
ガムラン・バラガンジュールとバリ島の葬儀

DHARMA SHANTI  
BANJIR DINAS ASAHPAULI  
DESA ABAT WAMANGI



録音セッションの際のバラガンジュール・ダルマ・シャンティ楽隊

## なぜバラガンジュールの新アルバムを?

ガムラン・バラガンジュール(バリ語で「歩行戦闘員のガムラン」または「前進する軍隊のガムラン」とは、伝統的国事や宗教的祭事、または戦闘時に演奏されるガムラン隊合奏パレードのことを言う。現在ではバリ・ヒンズー教の儀式の中で中心的な役割を持つようになり、葬儀(ピトラ・ヤッニヤと呼ばれる)やその他の祭事に欠かすことができない。バリ島のあちこちでガムラン隊の合奏を耳にすることでできるので、島を散策していると偶然ガムラン・バラガンジュールのパレードに出くわすことがよくあるだろう。そして、この合奏はバリ島にとどまることなく、バリ島の他のジャンルの音楽も含め、過去数十年のうちに世界中でプロデュースされ、知名度を上げた。

ではなぜ、今バラガンジュールの新アルバムを出すのか?

この質問に答えるには、この音楽がたどってきた近年の歴史に目を向ける必要がある。1980年代半ば、いくつもの音楽コンテストが開催されたことがきっかけで、バラガンジュールの新しいスタイルを発展・定着させることになった。より複雑な構造で斬新な音楽スタイルを探求しつつ、技とパフォーマンス性を大きく発展させ、従来のバラガンジュールのスタイルに差をつけたこの新しいスタイル(クレアシ・バラガンジュールという)は、バラガンジュールという音楽スタイルを確固なものにすることに貢献し、国境を越え、現在までにリリースされたアルバムの中のほとんどにクレアシ・バラガンジュールが収録されるまでになった。

今回リリースされたこの新アルバムでは、今までに出たアルバムにはない2つの点に特化している。ひとつは、クレアシ・バラガンジュールとの激しさとは大きく異なる、バラガンジュールに特出しているメロディー性と瞑想的な点。ふたつめは、ライブ録音をリスナーに届けることができた点。アルバムの全曲をバリ島で録音し、しかも一部は実際の祭事の現場でキャッチした音なのである。

SITE  
CENTRE



行進が始まる前に、僧侶（ペタンダ）が棺と塔（ワター）を清める

## アルバムの概要

A面は、ワナギリ村のティナ・アサバンジ地区(パンジャー)のダルマ・シャンティ・アソシエーション(テンペック・スカ・ドゥカ)のバラガンジュール楽隊の演奏による音楽を紹介している。2011年3月に、私自身がリハーサル会場(パライ)でライブ録音をしたものだ。デンパサール・バドゥン地区でよく演奏されるクレアシ・バラガンジュールとはほど遠いスタイルのバラガンジュールだが、儀式と結びついた伝統的なバラガンジュールとも違う。メロディー性があり、かつ激しい。技やパフォーマンス性に特出した「デンパサール・スタイル」よりも、瞑想的でドラマティックな面を探求している。

B面は、儀式の中のバラガンジュール楽隊を紹介している。クレアシ・バラガンジュールが大成功を収めるまでは、バラガンジュールはもっぱら儀式用の合奏という位置付けをされていたので、音楽性だけにしぼった見方や、儀式以外での重要性は薄かったと言える。B面に収録されている全曲が儀式の最中に録音されたもので、楽隊のバイタリティーとエネルギーを感じとることができる。この儀式というものは2日間にわたる葬式(ガベン)のこと、ペリアタン村にて2011年3月に録音。儀式の臨場感がより感じられるよう、ガベン葬式の様々な場面の音を収録した。その中の数曲は、ガムラン・アンクルンという別の楽隊による演奏からなる。この楽隊は、寺院での儀式の演奏と死者への儀式の演奏を受け持ち、バラガンジュールと役割分担されている。ガムラン・アンクルンは、バラガンジュールと同く近年新しいスタイルを確立したが、このアルバムに収録されている曲はどちらかといえば伝統的な形式のものだ。



葬儀の行列が、棺（ブルランガン）を運ぶ

## 2組のガムラン楽隊の要素

現在バリ島で演奏されているバラガンジュール合奏は、ガムラン・バラガンジュール・ブボナンガンとして知られている。この名前は、ペログ音階で調音された水平で真ん中に突起のある4つのゴングからきている（現在は丸いこぶつきゴング、レヨンを使うことが多い）。伝統的バラガンジュール楽隊の形式と比べ、メロディー性がある。バラガンジュールは、通常2つの太鼓（クンダン）、8組のシンバル（チェンチエン・コピヤック）、4つの小型水平ゴング（レヨン）、2つの中型水平ゴング（ポンガン）、4つの手持ちまたは吊り中・大型ゴング（カジャル、クンプリ、ベンテ、クンブル）と垂直吊り特大ゴング（ゴング・アゲン）で構成されている。

ガムラン・アンクルンは、バリ島に古くから伝わるスレンドロ音階を元に調音されている4つのトーンの小型アンサンブル。悲しげな口音調は、死にまつわる儀式や喪の慰めと関連付けられる。バラガンジュールと同じく、葬儀以外の儀式にも演奏される。ガムラン・アンクルンという名称は、アンクルン（竹製打楽器）からきているが、今ではこの楽器は楽隊の中には含まれない。現在は、アンサンブルは3オクターブ（ジェゴガン、ガンサ、カンティラン）をカバーする8～12の鉄琴とゴングの鐘（レヨン）、3つの吊り中・大型ゴング（クンブル、クンプリ、クレナン）、2つの太鼓（クンダン）、シンバル一式（リンチック）と、フルート（スリン）が加わる場合が一般的。なお、アルバムに収録されているアンサンブルにはフルートは含まれていない。



海辺のガムラン・アンクルン楽隊

## 正式な構造

バラガンジュールの曲は、太鼓(アウイット・アウイット)の出だしから始まり、レヨンが奏でるメロディーラインに続くのが一般的だ。メロディーは8ビート(ギラッ)のサイクルで発展していく(コロトミー音階)。それぞれのサイクルはゴングの音で終わる。各楽器の音がもつれ合い密集したリズムの地層を作り出していくのが特徴だ。すべての楽器が奏でられるパートと、太鼓とシンバルの音が入らないパートが交互に演奏されるのが一般的だ。

ガムラン・アンクルンの曲は、通常ガンサという鉄琴1台の演奏のフレーズ(ペンガウイ)から始まる。全楽器が奏でられる前の前奏曲だ。アンクルンは規則的なコロトミー音階であるにもかかわらず、大部分が不規則な1つのフレーズ(ゴンゴン)で成り立っており、最後はコロトミー音階に特徴的なゴングの音で終わる。ガムラン音楽の特徴である楽器のもつれによる密集したリズムの階層は、ガムラン・アンクルンにも見ることができる。

ヴィンセンゾ デラ ラッタ

### 参考:

- Bakan, M.: *Music of Death and New Creation: Experiences in the World of Balinese Gamelan Beleganjur*. University of Chicago Press, Chicago and London, 1999.
- Covarrubias, M.: *Island of Bali*. Cassell and Company Limited; London, Toronto, Melbourne and Sidney, 1937.
- McPhee, C.: *Music in Bali*. Yale University Press, New Haven and London, 1966.
- Ornstein, R.: *From Kuno to Kebaya: Balinese Gamelan Angklung*. Compact disc with liner notes, Smithsonian Folkways Recordings, SFW CD 50411, 2010.

### 写真:

ジャケット全面：バリ、ツルンヤン墓地

ジャケット裏面：火葬の後の棺(ブルランガン)

火葬場に一行が到着

## A面

### 1. Pemungkah ペムンカ (5:40)

ディナス・アサバンジ地区のダルマ・シャンティのバラガンジュール・アンサンブルは、この曲から演奏を始める。

### 2. Semut Megarang セムット・メガラン (6:40)

この曲は、アリの共同作業についての曲。アリの巣はコミュニティーの団結を象徴している。

### 3. Gilak Melasti ギラッ・メラスティ(6:15)

この曲は、バリ島の新年(ニュビ)のお祝い直前に行われるメラスティという清浄に関する儀式に関連している。

### 4. Dedari Ngindang デダリ・ギンダン (6:25)

この曲は、空を舞う女性の靈魂を意味する。

## B面

### 5. Procession to the house of the deceased 遺体安置所への行列 (2:09)

葬式の参加者が集合する遺体安置所へ向かう、ガムラン・バラガンジュール楽隊の行列を録音したもの。

### 6. At the house of the deceased 遺体安置所にて (8:00)

集まつた招待者にお芝居(トペン)とガムラン・アンクルンを披露する。このトラックでは、ガムラン・アンクルン全曲の中から、連続する3曲を選択した。

### 7. Procession to the cremation ground 火葬場へ向かう行列 (7:08)

火葬の当日、死者を載せた塔(ワダー)を担いで火葬場まで行進する。この行列にはガムラン・バラガンジュールがつく。この音楽には、行列にシンクロして行列を調整する役割とともに、死者の魂の危険な旅路を手助けする役目もある。行列の一行が交差点に差し掛かった時、塔を3回時計と反対周りに回転させ悪の魂を追い出すとともに、死者の魂が近親者にのりうつらないようにする役目も果たす。

### **8. Lamentation 哭き (2:21)**

火葬場に到着後、遺体は塔から取り出され闘牛の形をした張子の棺桶(ブランガン)にいれられる。火葬の直前には、女性のグレープが死者への贈り物を供え、哀調の嘆きを歌う。

### **9. At The Seaside 海を前にして (5:24)**

火葬の後、遺族と招待者は海辺に移動し遺灰を海に撒く。この儀式の間、ガムラン・アンクルン楽隊の演奏が続く。このトラックは、この儀式の時に演奏された曲だ。

このアルバムは、2011年3月に、インドネシア、バリ島で録音された。

A面はブレレン(カブバテン)県スカサダ地区(ケカマタン)ワナギリ村で録音された。B面は、ギャニヤール県(カブバテン)ウブド地区(ケカマタン)ペリアン村で録音された。

### **謝辞**

このアルバムのリリースにあたり、まず最初に、温かい歓迎をしてくれたパパ・ジエロ・チルタとそのご家族に謝辞を送ります。滞在期間中辛抱強く(物質的にも精神的にも)対応してくれ、家族のメンバーのように扱ってくれました。心からの謝辞をワナギリ村のダルマ・シャンティバラガンジュールアンサンブルに送ります。このアルバムに命を吹き込んでくれました。また、葬儀がベンへの参加、録音を承諾してくれたペリアタン村のご家族と、葬儀の演奏を受け持ったミュージシャンにも心からのお礼をのべます。最後に、この音楽を捧げる死者の魂に心からの尊敬の念を。

レコーディング、写真、ライナーノート : Vincenzo Della Ratta ヴィンセンツォ・デラ・ラッタ  
マスタリング: Jean-Pierre Bameulle  
プロデュース Akuphone アクフォン, 2017



儀式の後に放置された塔(ワタ)